

特別委員会調査報告

平成30年6月13日

薩摩川内市議会
川内原子力発電所対策調査特別委員会
委員長 成川幸太郎

1 委員会の開催日

4月25日

2 川内原子力発電所の安全対策に関する調査

(1) 川内原子力発電所の運転状況について

当局から、1号機及び2号機はそれぞれ定期検査に入っていること、気体・液体廃棄物の放出量は年間放出管理目標値を下回っていること、固体廃棄物の貯蔵率は66.1%であること、使用済燃料の貯蔵率は63.2%であること、新燃料は156体を貯蔵していること、法に基づき国へ報告を要する事象等は該当がないことについて報告があった。

(2) 川内原子力発電所1号機第23回定期検査計画の概要について

当局から、1月29日から実施している定期検査では、各種点検・検査のほか、原子炉容器出口管台溶接部保全工事や主給水配管取替工事などの工事を行うとともに、運転期間中において、1次冷却水中のヨウ素濃度に上昇が認められたことから、燃料集合体の漏えい調査を実施し、調査の結果、1体に漏えいが特定されたとの報告があった。

なお、3月30日に玄海原発3号機において2次系配管の腐食により蒸気漏れが発生したことを受けて、川内原発では、1号機において、同配管の外装板等を取り外して外観点検を行い、異常がないことを確認するとともに、2号機においても、4月23日から実施している定期検査の中で、同様の点検を実施する予定であるが、川内原発の同配管はステンレス製であることから腐食に強いと言われているとの説明があった。

(3) 平成29年度鹿児島県原子力防災訓練の実施結果について

当局から、2月3日に実施された平成29年度鹿児島県原子力防災訓練に参加した機関及び人員（190機関から約4,400人、うち本市民は230人）や訓練内容のほか、鹿児島県が防災訓練に参加した住民を対象に行ったアンケートのうち、本市民の回答結果について報告があった。

アンケートは、本市民が128人回答し、「住民広報は伝わったか」、「避難はスムーズにできたか」の問いに対し、約9割が「伝わった」、「できた」と回答し、「今回の訓練を体験して避難できると感じたか」の問いに対しては、約8割が「できる」と回答しているとの説明があった。

なお、調査の過程において、アンケートでは、「避難できない」と回答した市民もいたことから、市民の声を把握するためにも、次のアンケートでは、理由等を記入できるよう鹿児島県と調整されたい旨の意見が述べられた。